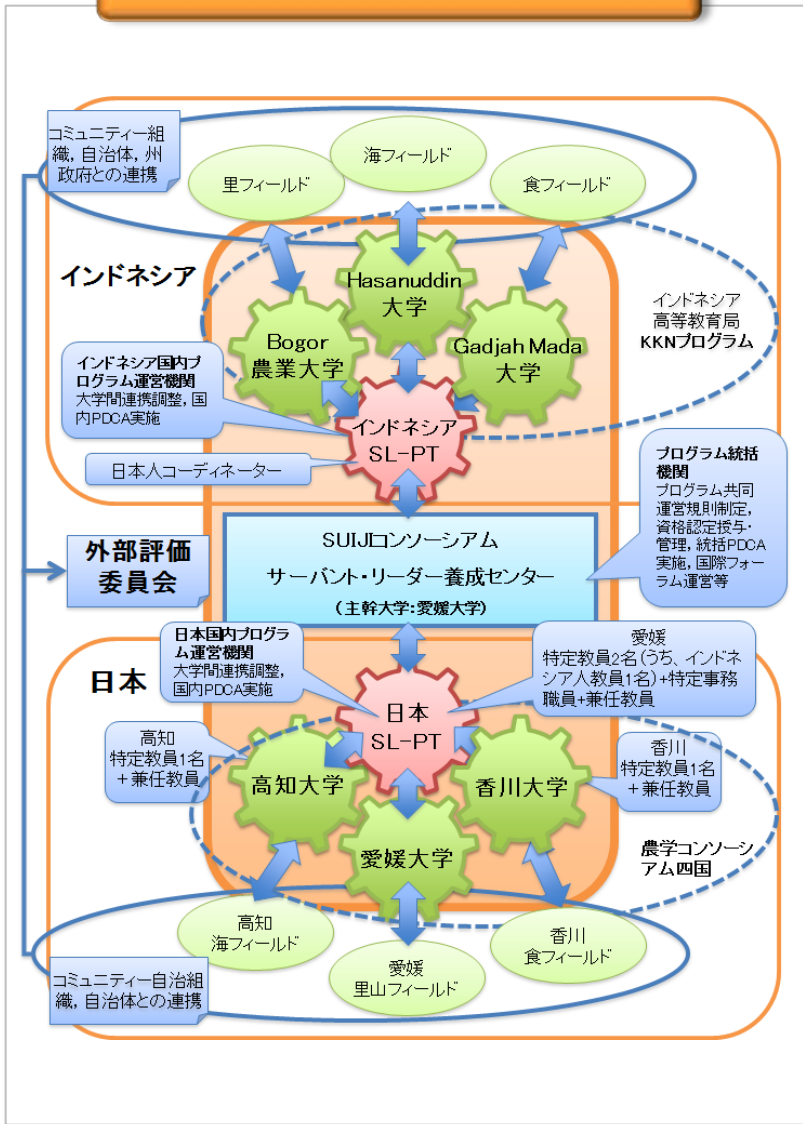


運営組織連携図



SUIJI-J(D)Pの取り組み概要

日本とインドネシア6大学が協働し、6つの教育研究分野(森林、水循環、土壌、食品科学、植物環境制御、海洋生産)でジョイント(ディグリー)・プログラム(SUIJI-J(D)P)

| 共同教育プログラム | 単位 |
|-------------------------------------|---------|
| Tropical Agriculture | 必修1.5単位 |
| Food Security and Community Service | 必修1.5単位 |
| Special seminar | 必修1単位 |
| Field research / Special experiment | 選択必修 |
| Special subject | 選択必修 |
| | 計8単位以上 |



派遣

●平成25年度 派遣予定

| 大学別派遣人数 | 大学別受入れ人数 | 期間 | 研究テーマ | 進路 |
|----------------------------------|---|--------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| 愛媛大学: 5名 香川大学: 1名 高知大学: 2名 | ガジャマダ大学: 1名 ホゴール農業大学: 6名 ハサステイン大学: 1名 | 最長＝ H25年8月 ～H26年3月 | 「インドネシア南スラウェシ州の木造高床式住居と森林の関わり」等 | うち1名が博士課程進学および「SUIJI-DDP」参加を検討中 |
| 合計: 8名 (H24年度派遣実績2名) | | | | |

受入れ

●平成24～25年度 受入れ実績

| 大学別受入れ人数 | 大学別派遣人数 | 期間 | 研究テーマ | 進路 |
|----------------------------------|---|--------------------------|--|---------------------------------|
| 愛媛大学: 5名 香川大学: 0名 高知大学: 0名 | ガジャマダ大学: 2名 ホゴール農業大学: 1名 ハサステイン大学: 2名 | 最長＝ H25年3月 ～H26年2月 | 「Crop Growth Model on Estimation of Water Productivity」等 | うち1名が博士課程進学および「SUIJI-DDP」参加を検討中 |
| 合計: 5名 (H26年3月から6名受入予定) | | | | |

SUIJI-SLPの取り組み概要

■SUIJIサーバントリーダー養成科目実施概要

地域未来創成入門

- ✓ 一次産業を中心とした持続可能な社会に関する基礎を学ぶ講義。
- ✓ 対面のワークショップ型講義とe-Learningで実施(H25年度前学期開講)
- ✓ 履修者は、**愛媛大47**(法文22、農17、工4、教育2、他)、**香川大11**、**高知大18**

カルチャー シェアリング

- ✓ インドネシアと日本の学生同士で互いの文化を学びあうフィールドワーク
- ✓ H25年8月に実施

国内サービスラーニング(ベーシック)

- ✓ 四国の農山漁村で6大学の学生が共にサーバントリーダーの基礎力を養う
- ✓ H25年8月実施。実習地は5つ。
 - 1) 愛媛県南宇和郡愛南町・銭坪
 - 2) 愛媛県宇和島市・蔭淵
 - 3) 愛媛県西予市明浜町・渡江
 - 4) 香川県小豆郡・小豆島
 - 5) 高知県幡多郡大月町・柏島
- ✓ インドネシア3大学から約30名、日本3大学から約70名が参加

アドバンスト・サーバントリーダーの
資格認定

海外サービスラーニング(アドバンスド)

国内サービスラーニング(アドバンスド)



ベーシック・
サーバントリーダーの
資格認定

海外サービスラーニング(ベーシック)

- ✓ インドネシアの農山漁村で6大学の学生が共にサーバントリーダーの基礎力を養う
- ✓ H26年3月、インドネシア3地域(ボゴール、ジョグジャカルタ、南スラウェシ)で実施。
- ✓ 日本3大学から約70名、インドネシア3大学から約30名が参加

【日本学生がインドネシアで研究する利点・問題点】

利点:

1. 自分の専門分野以外の知識を学ぶ意欲が向上する
2. 日本とは異なる常識や考え方があることを理解する
3. コミュニケーション能力を向上させる必要性を強く意識する

問題点:

1. 就職活動などに制約され、インドネシアの長期滞在が難しい
2. アカデミックカレンダーのズレのため、短期間での単位取得と研究が必要となる
3. 日本人学生のコミュニケーション力や英語力が相対的に低い

【インドネシア学生が日本で研究する利点・問題点】

利点:

1. 自分の専門分野をより深める意欲が向上する
2. 日本の技術や日本人の知恵や文化を理解する
3. 卒業後、日本の大学に進学する可能性が高くなる

問題点:

1. 日本語能力が低いため、適応に時間がかかる
2. 異なる研究手法や環境への適応に時間がかかる
3. JASSO奨学金での短期受入の場合、支給額が不足しがちになる